

子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

8月2日(金)に八尾支援学校で「事例から学ぶ支援教育」をテーマとして研修会を行いました。今回の研修では、八尾支援、東大阪支援、東大阪市、八尾市、柏原市の幼・小・中の先生方など172名の参加があり、児童・生徒についての疑問や悩みについて事例を持ち寄り、意見交換を行いました。子どもへのかかわり方や進路に関することなど長期的な視点まで、活発な意見交換が行われました。「早速実践します！」という意見があったり真剣にメモをとっている方もおられたり、とても有意義な時間になりました。普段なかなか行えない事例相談を通して、「この子にどのような支援をしたらいいの？」という悩みや疑問を共有し、よりよい支援を行っていくきっかけになると幸いです。次回開催時も、たくさんの先生方の参加をお待ちしております！

以下に参加された先生方の感想をいくつか紹介します。

- いろんな事例を伺い、自分の学校の生徒にも当てはまるような身近なものが多く、とても参考になりました。
- 愛着の問題はどここの学校でも困っている問題だと感じました。
- どの校種にも色々な気になる子どもがいる事が分かり、解決に向けてのヒントをたくさん得られました。
- 助言を頂いたりしながら、支援というものを考える機会となりました。



“愛着の問題を抱える”子どもとのかかわりに悩んでいる先生方も多いようです。第8号では『反応性愛着障害 (RAD)』の2つの群について触れましたが、今号では子どもたちの「愛情の受け止め方」の特徴に着目します。かかわり方のヒントになればと思います。

こんな悩み
抱えていませんか？

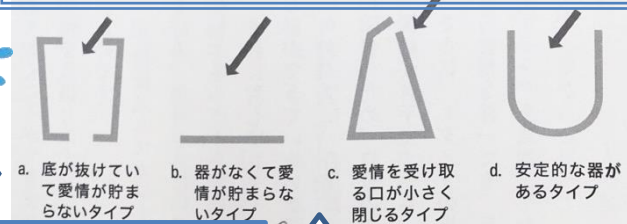
たくさんの愛情を
注いでいるつもりなのに、
行動が改善
されない

その愛情、きちんと
受け止められてる？



「愛情の器」モデルによるそれぞれのタイプ

a.抑制型 b.脱抑制型 c.ASD 共存 d.安定愛着



★支援のポイント★

- 「器」のフタを開ける【愛情を受け止める】
- 「器」の底をふさぐ【愛情を貯めておく】

参考文献：やさしくわかる！愛着障害 米澤 好史 著

支援は「何をしたか」
ではなく、子どもが
「どう受け止めたか」
を大切に★

Point

「愛情の器」づくり

- 1対1 “キーパーソンと一緒に”を意識して
- 感情のラベリング支援！

◆第2回ブロック研修会のお知らせ◆

日 時：令和2年1月7日(火) 14:00~16:30 (予定)

会 場：八尾市教育センター大研修室1

講 師：三重大学 教授 松浦 直己 先生

講演名：学校でできる認知行動療法の応用

～気になる行動を繰り返す子ども達への支援～

気になる行動を繰り返す背景にはその子ども独特の『認知の歪み』が存在します。学校の構造化を利用し、どのように認知行動療法の技法が応用できるかを解説します。(松浦先生)

